ラジオ体操

札幌市医師会

今野　則道

北海道医師会館の真向かいにある大通公園野外ステージ前の広場は、ラジオ体操の会場にもなっている。私も閉院し中央区に移り住んでから体操に参加するようになって７年過ぎた。早起きして出かけるのは結構根気のいることだが、それでも爽やかな１日のスタートを切ることができる。この会場は年中無休で、真冬にはまだ夜が明ける前から10人近くが集まってくる。春になると近くの住人はもとより遠方からも多数集まり50人以上にもなり、その多くは中高年者のようである。ラジオ体操はわずか10分間の運動で、私の万歩計で2,000歩くらいになるから、参加者にとって手頃な朝の運動である。６時半になると聞き慣れたラジオ体操の音楽が始まり、それに合わせて各自思い思いのリズムで体操に集中する。滅多にないことだが「地震速報」などの臨時ニュースで音楽が中断することがあり、そんな時でも皆戸惑いながらも音楽無しでそれぞれのリズムで体操を続けることもある。

大通公園は「公園」というより「イベント会場」と呼んだ方がいいくらい年中イベントが目白押しで、静かな期間といえばオータムフェストが終わり翌年の雪まつりの雪像を作るための足場の組み立てが始まるまでの３ヵ月くらいである。イベント最中の体操会場にはテーブルや椅子がギッシリ並べられ、まわりは店舗で囲まれているから体操はその中の隙間を見つけてすることになる。体操の間カラスが落ちている餌を探してテーブルの上を飛び跳ねていることもよく見かける。

しかし今年は例年と違い静かな公園である。新型コロナウイルス（COVID-19）パンデミックの影響でほとんど全てのイベントが中止になり遊具の使用も禁止され、公園を行き交う人の数も減っている。ライラック、花壇そしてバラ園が例年になく鮮やかに見えるのも、イベントがなく人混みも減りゆっくり鑑賞できるせいなのかもしれない。体操広場も例年になくゆったりしている。多くのジムや体操教室が閉ざされた中で、朝の時間帯のこの広場は言わば聖域のようで、いつもの顔なじみが大勢集まってきては爽やかな空気を思い切り深呼吸している。大通公園はこんな感じもいいなと思う瞬間である。なかなか先の見えないパンデミックだが、一日も早く収束してほしいと思う一方で、いずれまたあの喧噪がこの公園に戻ってくるだろうと思いつつラジオ体操に通っている。

誕生日プレゼント

苫小牧市医師会
苫小牧日翔病院

坂本　和也

先日誕生日を迎えて数日が過ぎたある日、単身赴任先の苫小牧に突然京都にいる長男から誕生日プレゼントが贈られてきた。私の記憶では幼少時を含めて彼から誕生日プレゼントを貰ったことがなかったので、嬉しいやら恥ずかしいやら複雑な感情を抱きながら箱を開けた。

中にはなんとスコッチウイスキーが１本入っていた。アイラ島のものらしいが、なんせ私はウイスキーについてはド素人で安価なウイスキーのハイボールをたまに飲むくらいだったので、よく価値が分からない。LINEでお礼かたがたどんなものなのか聞いてみると、長男曰く甘さが特徴で、好き嫌いが分かれるが癖になる甘さだとのこと。これが赤ワインなら間違いなく独り占めする癖にますます独りでは飲みづらくなってしまって、これまた珍しくその週末に札幌の自宅へ持って帰った。

夜になりそろそろ妻と一緒に飲んでみようかと思いつつも、飲む直前になるとなんだか一層もったいなくなり、なじみのイタリアンで一杯ひっかけて気持ちを大きくしてから、帰宅後に二人でロックを試飲した。うまかった。ただ、うまかった。妻もおいしい、おいしい、と言っていた。普段ならどんな酒でも大量に消費する口だが、感無量のまま二杯目を飲み終わり胸いっぱいになった瞬間、妻から一言。「パパ、もういらないの～じゃあ、残りは私がもらうね～」。かくして、私の誕生日プレゼントはあっと言う間に妻のものとなった。